

富士吉田 市婦連だより

発行
富士吉田市連合婦人会



会長 渡辺 長富江

あいさつ

変わることにない美しい冠雪の富士を仰ぎつつ、私たち婦人会も活動を制限されてきました。しかし、本年も多くの会員の皆様のご協力を頂き、いろいろな活動を通してさまざまなことを学ぶことができました。

ウクライナに困っている人達にと婦人会（赤十字奉仕団）役員で市内のスーパード店頭にて募金活動をしました。集まった皆様の心温まる義援金十一万二千四円を日本赤十字社富士吉田地区長である堀内市長へとお届けしました。

桜が咲き誇る四月、全国女性団体連絡協議会創立七十周年を記念して全国大会が渋谷公会堂で開催され、富士吉田市婦人会は二十三名が参加させて頂きました。

環境問題をはじめとして、青少年育成、赤十字奉仕団、消費者啓発、交通安全母の会とさまざまな活動をして参りました。

中でも、長年継続しております毎月十日実施のシートベルト着用調査は市内六ヶ所で指導に当たっております。お忙しい勤務にもかかわらず、警察署長のお声で毎回パトカーの巡回をしてくださり、暑い日寒い日交差点に立つ会員の皆様に激励して下さいました。

富士吉田市主催の市民夏祭り、富士山開山祭、富士登山競争給水協力等に参加し、市のPR活動の一役を担っております。

このような活動も、市民の皆様のご支援とご協力、また、行政各位のご指導があつてでございますことに感謝申し上げ、ここに一年間の活動のご報告をさせていただきます。



ウクライナへの募金活動の様子

令和四年度定期総会



四月二十一日（木）、富士吉田市連合婦人会、交通安全母の会、富士吉田市赤十字奉仕団の定期総会が三年ぶりに、堀内

日（木）、富士吉田市連合婦人会、交通安全母の会、富士吉田市赤十字奉仕団の定期総会が三年ぶりに、堀内

来賓の皆様のご臨席を賜り開催されました。

令和三年度の事業報告、決算報告が承認され役員の任期満了に伴い新役員も承認され、本年度の事業計画及び予算案について審議、承認も行われました。

定期総会防災講演は、富士吉田防災士会の渡邊義広様より「富士山火山災害を知る」と題して開催されました。昨年十七年ぶりのハザードマップ改定により、渋滞発生による逃げ遅れを防ぐため「一般住民は原則、近くに徒歩避難」が新方針として打ち出されたそうです。

婦人会幹部研修会

若葉も色濃くなり、陽気も暑いくらいの五月十七日、三年ぶりに富士吉田市連合婦人会幹部研修会が開催されました。

緊張感の中進行して行き、途中サブライズで堀内茂市長さんが見えになり、ウクライナ募金のお礼にとバッチを届けて下さりお話をいただきました。

その後講演に入り、日本赤十字社山梨支部の花村氏による赤十字の事業や活動をスクリーンに映しての解りやすい説明で、大変勉強になりました。

それから、私達の大先輩である真田幸子様から、一円玉募金の由来や婦人会の歴史などのお話をいただきました、とても有意義な一日でした。



富士吉田市婦連だより 第25号発刊に寄せて



富士吉田市長
堀内 茂

富士吉田市長あいさつ

富士吉田市連合婦人会の皆様には、日頃から数多くの地域貢献にご尽力いただいているほか、ウクライナ危機に際しては、涙にむせぶ無辜の方々の支援を本市が打ち出すと、奉仕の精神あふれる皆様は、すぐさま募金活動を展開、翌週早々には義援金を届けてくださったなど、市政に對しましても多大なるご協力を賜っており、改めて深く感謝申し上げます。

さて、この数十年で世界における女性の社会進出は大きく進展いたしました。が、先進国と言われる我が国のジェンダーギャップ指数は146カ国中116位と世界でも最低レベルであります。

一方、そのような厳しい社会においても、対コロナの最前線である医療や介護の現場では、女性がエッセンシャルワーカーの大半を占め、高い感染リスクに晒

されながら日々懸命に社会を支え続けてくださっていることを考えれば、社会変革が急務であります。

これのみならず、引き続きコロナ禍に加え、物価高騰や記録的円安など、現在かつてない厳しい時代を迎えておりますが、今後、この難局を乗り切るためには、若者から年配の方まで、あまねく市民の力を結集する必要があります。その際、中心的役割を果たしていただきたいのが皆様であると考えておりますので、どうか引き続き本市の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、富士吉田市連合婦人会の一層のご発展と、会員各位のご健勝・ご活躍を心からご祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。



富士吉田市議会議長
小俣 光吉

富士吉田市議会議長 あいさつ

「富士吉田市婦連だより」の発刊、誠にめでとございます。

富士吉田市連合婦人会の皆様におかれましては、平素より市政全般並びに市議会の活動に対し、温かいご理解と多大なるご協力を賜っておりますことに心から

感謝申し上げます。

富士吉田市連合婦人会の皆様には、慈愛の精神や奉仕の精神に基づき、女性としての立場、あるいは家庭を持つ主婦の立場から、文化活動・ボランティア活動など、あらゆる面で活躍されておりますことに心から敬意を表す次第であります。

近年、全国各地で様々な業種において人手不足、担い手不足が深刻化しており、地域社会にも大きな影響を与えています。そのような中、女性の視点や行動力は、地域に明るさや活力をもたらすものと大きな期待が寄せられております。

本市においても、人口減少が顕著となる中、今後も健全な地域コミュニティを維持し、発展させていくためには、皆様方がこれまで培ってこられた活動や経験が推進力になるものと確信しております。本市議会といたしましても、明るく住み良いまちづくりのために、皆様方と共に尽力して参ります。

結びに、富士吉田市連合婦人会が渡辺会長のものと、ますますご活躍されることをご祈念申し上げ、あいさついたします。

秋の交通安全運動出発式

九月十九日、秋の交通安全運動出発式に参加してきました。台風十四号の接近の為、富士吉田警察署駐車場より下吉田第二小学校体育館に場所が変更になりました。

ボーイスカウト富士吉田第一分団によるマーチングの後、交通安全母の会(富士吉田市連合婦人会)による「富士五湖音頭」、「福よ来い」などを四十五名で披露しました。

九月二十一日の秋の交通安全運動街頭指導実施日には、富士吉田市役所前交差点にて街頭指導を行いました。富士吉田署管内では、飲酒運転も多く、交通事故も増えていると聞きました。これからも運転をする時には気を引き締めていきたいと思います。



秋の交通安全運動街頭指導



秋の交通安全運動出発式・踊り披露

令和四年度山梨県定期総会

六月二十日、山梨県連合婦人会定期総会に出席してきました。式典では県の副知事、県議会議員、県教育長さんのご祝辞をいただき多数の来賓の出席もいただきました。また、総会では日々の事業活動報告と会計報告、次年度事業計画と予算の審議などを行い無事終了いたしました。総会後の第二部では、ふじ内科クリニック院長の内藤いづみ先生によるビデオ講演会が行われました。



講演の題目は「老いを楽しくあなたらしく生き抜く」でした。アンチエイジングよりエンジョイエイジングで自分の体は自分でコントロールしようとのことで

七十周年記念全国大会



四月二十六日、渋谷公会堂にて女性会全国大会と記念コンサートが開催されました。全国女性団体連絡協議会櫻井よう子会長の迫力ある挨拶で始まり、ご祝辞を元総理の安倍晋三様から頂きました。

女性会への期待と励ましのお言葉でした。次に、山海嘉之氏と筑波大学長永田恭介氏の記念講演特別対談が行われ、お二人のお話の中で科学技術が進んでも人と人とのつながりの大切さ、やりがいを持つことの幸せ、人を思いやる心を軸にした人間形成を行い、大きな夢を描ける社会の実現等心に響くお言葉に感銘しました。後半の記念コンサートは、豪華絢爛の踊り、若者から年配者までを虜にしたコンサートに酔いしれ感動を頂き余韻を残しながら閉会しました。

信玄公祭り

秋晴れの中、十月二十九日に三年半ぶりの「信玄公祭り」が行われました。当日は、県連婦人会六十名の一員として参加させていただきました。その日の午後には、舞鶴城公園において、風林火山戦勝祈願の舞を行い、富士吉田婦人会は「富士吉田音頭」と「音頭福よ来い」の二曲を、県連全体では「武田節」と「甲州よっちゃばれ」二曲の披露となり、甲州軍団出陣に花を添えることができ、観光客をはじめ多くの方々から拍手をいただきました。鎧や兜を纏った勇壮な甲州軍団の方々のお姿に戦国絵巻を感じ、戦国時代の様子が感じ取れました。そして、富士吉田婦人会は信玄公祭りの舞で今年の踊り納めになりました。お疲れ様でした。



ふる里史跡めぐり みんなの里

山梨県連合婦人会は昭和二十六年に地域の再生と女性の地位向上、社会進出を目指して結成され住み良い社会の実現の為に地域に根差した活動に取り組んでいきます。その活動の財産というべきもので「ふる里やまなしの民話」という民話集があります。婦人移動講話でその中の民話にまつわる地域を訪れながらその地域の人々の生活や歴史を学ぶ目的です。今年度は、ふる里やまなしの民話に載っている都留市の「お茶壺蔵とその道中」に関わる勝山城址の見学をして来ました。あいにくの雨の為山の上のお城跡には行けずバスの中での説明となりましたが、この地域の人々の生活や歴史を学ぶ機会としてコロナ禍ではありましたが感染拡大に配慮して行っていました。



富士山開山前夜祭



六月三十日、富士山の山開きを告げる開山前夜祭が北口本宮富士浅間神社で行われました。三年ぶりに全ての神事が行われ、富士講パレードでは、富士講信者らとともに婦人会役員も白装束を纏って参加しました。その後前夜祭では、神社境内において登山の安心・安全を願い、市連会長を始め婦人会役員四十三名による踊り三曲が奉納できたことに感謝し、けがれを払う「夏越大祓」や開山を告げるお道開きの儀式に参加させていただき、無事に開山前夜祭を納め貴重な体験ができました。なお、翌七月一日は開山祭の祭典が行われ、婦人会役員十名が出席しました。両日大変暑い中お疲れ様でした。

市民夏まつり



コロナ感染者数が落ち着いた春、今年は夏まつり開催、という連絡に各地域ごとの会長副会長を中心に踊りの練習が始まりました。総練習最終日の朝、「コロナ感染者数の急増のため、夏まつり中止」が発表され、肩を落としていたところ、関係者各位のご努力により、昨年同様、収録という形での参加が決定されました。舞台での出演は人数と時間制限があり、それを改めた上での練習を一回行ったのみで収録本番に臨みました。今まで一緒に練習してきたけれども参加できなかった会員の方々のためにも思い

踊りました。二年間、舞台の踊りの収録という形での参加でしたが、来年こそは伝統ある全員参加の夏まつりが実施されることを願っております。

交通安全母の会 シートベルト着用調査



毎月十日の朝、市内各地区の主要交差点六カ所

シートベルト着用調査をしていきます。八月は、朝から強い陽射しが照りつける暑い日でしたが、警察官の巡回指導もあり、有意義な呼びかけをすることが出来ました。シートベルト着用・携帯電話使用の有無を主に調査しています。私達の掲げるプラカードを見て、慌ててシートベルトを着用する人も居ます。「ちよつとそこまでだから!」「スビードを出さないから!」という理由でしょうが、命に関わる大切な規則です。全ての運転手に、まず「必ずシートベルトを着用する」という意識が定着できるように切に願います。これからも調査を続け、交通事故ゼロをめざして活動していきます。

富士山環境美化後期フリン作戦



本年度の富士山をきれいにする会主催の「富士山環境美化後期フリン作戦2022」が九月九日に富士山五合目を中心に実施されました。今年は三十二団体と個人参加を含め約二百三十名の参加者があり、富士吉田市連合婦人会では十一名が参加しました。婦人会が清掃したところは、ロータリー西側のお中道で、ごみもそれほど無く日頃から観光客や関係者の方々の環境美化意識が高まって来ていると感じました。また周辺には、はまなしやしゃくなげの群生、キノコなどもあり自然豊かな富士を体験することができました。山の天気は変わりやすく雨の心配がありましたが、無事にフリン作戦も終了し、きれいになった富士山に沢山の方々が訪れることを願っています。

恩賜林草取り

十月十二日(水)、市連合婦人会活動による恩賜林組合庁舎回りの草取りを行いました。当日は過ごしやすく草取り向きのお天気で恩賜林組合の職員さんの誘導により午前と午後の部に分かれて作業を行いました。コロナの水際対策は緩和されましたが全員がマスクを着用し下を向き、コンクリートの上に強く張った草、芝生の中に生えた草など取りにくいにもかかわらず精を出し力いっぱい抜いて一生懸命作業に当たっていました。竹ぼうきで掃く作業が終わった時は庁舎の回りもきれいになりとても清々しい気持ちになりました。休憩時間の水分補給も密にならず皆さん良い笑顔でのひと時でした。参加して頂いた皆様ありがとうございました。お疲れ様でした。



富士登山競走給水ボランティア

七月二十九日(金)、快晴、日本中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症が収束しない中、第七十五回富士登山競走が三年ぶりに開催されました。猛暑の中、日本一過酷なレースに例年の約半



分の二六〇〇人のランナーが山頂コース、五合目コースとそれぞれのゴールを目指しました。私たち婦人会は、中の茶屋の給水ボランティアとして参加しました。最後のランナーが通過し、中の茶屋までは脱落者がいなかったと聞いた時、自然と拍手が起きました。疲れたけれどもとても清々しい気分でした。最後、大会準備に携わった関係者の皆様のご苦労を労いつつ、来年も無事に大会が開催される事を願っております。

富士山環境美化清掃開始報告祭・植樹祭

富士山を現在の美しいまま、後世に伝える行事として五月二十四日富士山環境美化清掃の開始報告祭が北口本宮富士浅間神社で行われ、私連代表メンバーが出席しました。翌二十五日爽やかな気候の山中湖交流プラザぎら内にある湖畔沿いの会場で富士山環境美化植樹祭を行いました。会場は快晴の空に秀麗な姿の富士山が私達を出迎えてくれ、景観の素晴らしさに感動しました。各グループに分かれ



植え方の指導を受けて作業開始。予定時間内に植え付けを完了しました。植樹祭に参加したことにより、文化遺産を未来に引継いでいくことの大切さを改めて痛感し、その一端を担っていることを誇りに思うと同時に幸せな気持ちになりました。

環境講演会

「なぜ海は青いの?」「山はどうしてデコボコしているの?」ふと、立ち止まって身の回りの色々な事のひとつひとつに「なぜ?」と考えると…。たくさんさんの【?】が次から次へと思い浮かんできます。環境を考える上では、この【?】を引き出す力が重要であり、答えはそれほど重要ではないそうです。また、アルテミス計画・クエーサー等、宇宙環境利用についても色々お話を聞く事が出来ました。初めて聞く言葉もたくさんありましたが、分かりやすく丁寧な解説でした。『当たり前ではない』事に気づく事の大切さ。身近なところから「なぜ?」と思う事の価値観。何よりも『関心を持つ事』が環境教育の第一歩である事を学べた講演会でした。



日赤災害訓練

十月十八日、河口湖町民体育館で災害救護訓練が行われました。二年前にも訓練に参加しましたが、その時は非常炊き出しでした。今回は応急手当で教説圧迫止血、三角巾のたたみ結びと解き、膝の包帯訓練。新型コロナのため自身に実施でした。三角巾のたたみ結びまでは



順調に出来たのですが解きになると三角巾が新しく滑らないため引つ張るだけでスルッと解けるはずが解けず悪戦苦闘しました。膝への包帯も膝裏で包帯をクロスさせることで膝の曲げ伸ばしが楽になるのですが、クロスが難しく講師の「大丈夫です。何度でも聞いてください」と言う丁寧な指導に救われました。家でもたまには三角巾を出して練習し、忘れないようにしたいと思います。

日赤献血ボランティア

六月十四日(火)、赤十字奉仕団員として献血ボランティアに参加させて頂きました。雨の降りしきる肌寒い日でしたが大勢の方が来場され、私達は、献血前後の誘導、御気分の確認、粗品手渡しなどのお手伝いをさせて頂きました。また、この日は世界献血者デーという事で、献血参加者の方に「献血とは」という問いに答えて頂く企画がありました。メッセージを読ませて頂くとそこには、見ず知らずの誰かを思いやる気持ちがあふれていました。コロナ禍で献血をする方が少ないと聞いていましたが、多くの方が思いやりの気持ちで行動している事にもとても感動しました。今回婦人会活動を通して、人々の優しさにふれる貴重な経験ができ感謝しています。



関東ブロック大会



十一月とは思えない暖かな十一月三十日。埼玉県さいたま市のホテルに於いて全国女性団体連絡協議会、関東ブロック会議が開催されました。最初はウクライナ支援ミニコンサートでヴァイオリン、ピアノ、サクソフォンの素晴らしい音色に「平和な世界を」と強く願いました。次に東京大学人気講義NO1に選ばれた東大教授の瀬地山角氏による「皆で明るく考えよう。家庭のこと、地域のこと、未来のこと」の記念講演です。ご自身の体験談を交えてユーモアあふれる語り口で「これからは性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮することが出来る新しい社会を女と男で構築しよう」と力説されました。男性にも是非聞いていただきたい講演でした。

標準化セミナー

九月の半ばにもかかわらず、残暑きびしい十三日、山梨県連合婦人会による標準化セミナーが、ふじさんホールで開催されました。財団法人日本規格協会の渡辺義治氏と若山まゆ子様をお招きし、JISマークの安全性や、オリピックでも使用されたピクトグラムなど、絵を見ただけで誰にでも解る物、又高齢者や障害者に配慮したシャンプー



ボトルの側面のギザギザ、牛乳パックのあけ口の反対側にある切りかけの説明や、衣類に付いている取り扱いの表示記号の意味など詳しく教えていただき、洗濯時の参考になりました。日常生活の中でふと目にする記号やマークの意味合いがわかり、役立つセミナーになったと思います。

親子ふれあい木工教室



見事にもみじの紅葉が始まった十一月五日(土)、恩賜林庭園内キボキボに「おはようございます」と元氣一杯の親子六組の皆さんが来場してくださいました。高村県連会長の挨拶に始まり、県生涯学習課のお二人にお言葉をいただき、指導員の方々の自己紹介後いよいよ「親子でお名前プレートづくり」の始まりです。まず最初に、アルファベットで自分の名前をブルーガンをを使って板台に接着させ、マーカーで色付けしました。準備されている大小様々な松ぼっくりや木の実の配置など親子で楽しそうに相談しながら作業する姿を微笑ましく思いました。秋の実り一杯の作品が飾られたお部屋を想像すると気持ちがふんわりとして来しました。

名札リニューアルの紹介

長年にわたり愛用され続けてきました役員用名札ですが、今年度四月より、写真のように名前は大きめに地区名、一部役職名入りの大型且つ首からループで吊り下げるタイプの名札へとリニューアルさせていただきました。会員相互の名前をおぼえるためにも会服着用時に限らずポロシャツ、私服着用時などいろいろな場面で使用していきたいと思えます。



昆布のおいしい食べ方

昆布の煮物(結び昆布)多く作りすぎて食べあきたという人、ちよつと二手間かけて！
①昆布煮をザルにあげ、30分位汁気をきる
②天ぷらの衣をすこし固めに作る
③衣をつけて揚げる

揚げたてをめし上げ！ビールのつまみに最高、

時間がたつてしまったらうどんの具にもいいですよ。



一円玉募金

毎年度、市民の皆様の善意の一円玉募金活動を行っております。今年は、会長宅のご近所の方々が自主的に募金(写真)を届けてくださいました。皆様方よりご協力いただきました募金ですが、下記ご報告のとおり配分を行いました。



1円玉から50円玉までありました



皆様の善意を市に届けました

◎1円玉募金のご報告

・下吉田地区	100,178円	・上吉田地区	70,000円
・大明見地区	50,000円	・市連	50,120円
		合 計	270,298円

◎配分内訳

・市社協議会	100,000円
・県婦連(県社協、県婦連備蓄等)	50,000円
・赤い羽根募金	35,000円
・台風15号の災害給付(日本赤十字)	30,000円
・市連災害備蓄金	55,298円
合 計	270,298円

令和四年度役員

会長	渡辺 富江
副会長	穴水 ひろ子
理事	山田 伸子
理事	渡辺 しみず
理事	瀧口 あけみ
理事	加々見 一枝
理事	(下吉田地区) 小佐野 泰子
理事	(上吉田地区) 岩下 由美
理事	(大明見地区) 渡辺 春美
理事	(大明見地区) 渡辺 照美
理事	(大明見地区) 渡辺 金子
監事	渡辺 金子
顧問	民謡舞踊指導

各地区婦人会の様子

●下吉田地区●

総勢四十名からなる下吉田地区婦人会、理事、会長は八地区の代表者で十二名、下吉田の役員五名と毎月定例会を行っている。コロナ禍ではありましたが、夏祭りに向けて、今年はオレンジ色のポロシャツを全員が購入し、四月から踊りの練習を行いました。合同練習にも参加し、下吉田地区でも踊りの先生に来ていただき練習しました。そのような中、コロナ感染者の増加により、夏祭りは中止になってしまいました。その後、リモートで人数制限の中踊ることができました。今年は三年ぶりに信玄公祭りが行われ、新たな踊り武田節も練習し十五名参加しました。皆さん主婦であり、仕事や家事等お忙しい中、朝早くのシートベルト調査など、ご協力頂きありがとうございました。



【下吉田地区】恩賜林庭園にて

●上吉田地区●

上吉田地区は、新屋、上宿、中宿、下宿、松山の五分会で構成されています。地域から富士山信仰に結びついた行事が多く、その中から「すすき祭り」の様子をご紹介します。四百年以上の歴史を誇る「吉田の火祭り」に続き、「すすき祭り」が北口本宮富士浅間神社で行われました。今年もコロナ禍が続いていますが、三年ぶりに八月二十七日の「すすき祭り」に参加させて頂きました。すすきの穂に御守りを付けた御注連を、参加した役員の手で一つ一つ丁寧に無病息災を祈願しながら作製し、市民や観光客に販売し、その後、境内において多くの参拝者のいる中、奉納民謡踊りを三曲披露しました。お参りに佐々木健介ご夫妻が見えて一緒に撮った写真です。



【下吉田地区】定例会にて

●大明見地区●

十一月三日、四日「令和四年度大明見文化祭」が行われました。「輝ける未来」という今年度のテーマにふさわしい、見応えのある素晴らしい作品が展示されました。総出品数は四百四十二点。各賞が審査により選ばれ、表彰されました。事前の準備は自治会を中心に進められ、婦人会は主に小中学生の作品の展示や会場の飾りの作製等を手伝いました。当日は多くの方が来場してくださり、ゆっくり見ていただく事が出来ました。年齢も地区も様々の皆さんが「どの作品も素晴らしいですね。」と大変

感動していました。コロナ禍で制約のある中での開催でしたが、有意義な経験でした。輝ける未来に向けて皆の気持ちが一つになった二日間でした。



【大明見地区】文化祭にて



【上吉田地区】すすき祭りにて

編集後記

「三年ぶりに…」この春からよく聞かれるフレーズとなりました。私達婦人会活動も縮小であったり、場所の変更など少しずつ形を変えつつも前年に比べ多くの活動ができました。今日ここにこの情報誌が皆様にお届けできますことに感謝いたします。

